

移住体験プロジェクト

矢吹和心 佐藤花実 八太柚帆 平尾瞭汰

概要

移住体験ツアーを行い、本別町の人口減少の課題を解決しようというプロジェクト

1. はじめに

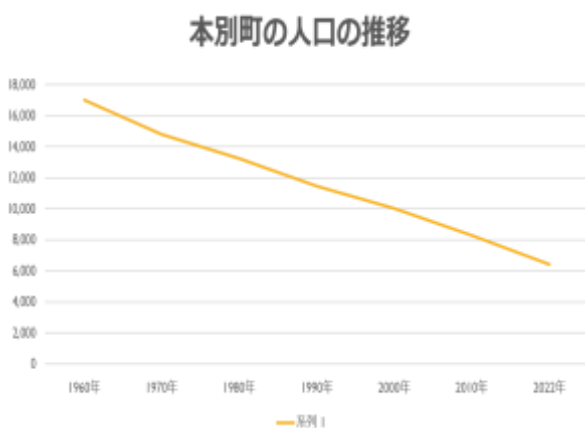
私は、普段、本別町で過ごしていて、もっと人口が多かったら…と思うことが多く、人口減少が進んでいることを感じていた。人口減少を止めるにはどうしたらいいのか、解決策を班員で多くの意見を出し合いながら進めていこうと考えたのが移住体験ツアーである。

2. 課題について

本別町の人口減少が進んでいること。

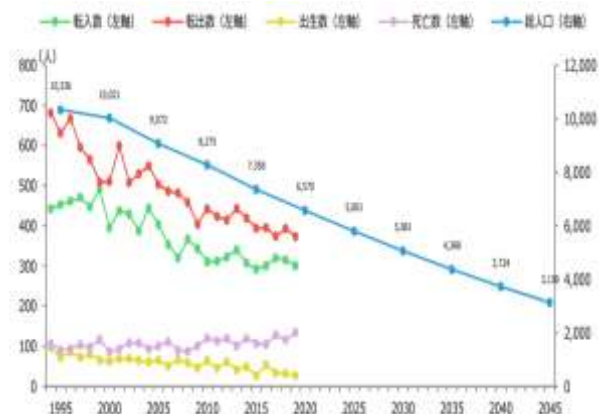
3. 現状分析について

初めに、本別町の人口の推移を調べると、年々減少していることがわかった。(図1)しかし、人口減少は本別町だけの問題ではなく、日本全体で起きている問題であるため、減少率を調べてみた。全国と本別の減少率を比較してみると、日本全体で-0.51%、本別町で-2.78%であることがわかった。



【図1：本別町の人口の推移】

次に、減少している原因を見つけるために、本別町の転出者、転入者の推移を調べた。(図2) 赤色の折れ線グラフが転出者、緑色の折れ線グラフが転入者である。どの年代も転出者が上回っていることから、転出者が多いことが減少につながっていると考えた。



【図2：本別町の転入者と転出者】

さらに、転出者が多い原因として、仕事場が少ないのではないかと考えた。本別町と人口が同じ規模の東川町と求人の数を比較してみると、本別町の方が258件少ないことがわかった。(図3)



【図3：本別町と東川町の求人数の比較】

4. 仮説について

本別町の小・中学校、高校、役場の方々の居住地を調べるためアンケートを取った。

町内外のどこから通勤しているかの質問に対して、町外から通勤していると答えた人が14%いた。隣町の足寄町や、約1時間かかる帯広市から通勤していることが分かった。

この結果から、町内から町外に通勤することは可

能であると考え、「本別町から他の町に出勤してもらうことで、本別町の人口を減らさずに本別町内の仕事の少なさの課題を解決できるのではないか」という仮説を立てた。

5. 解決策について

解決策として、本別町に住み、通勤してもらうために「移住体験ツアー」を考えた。理由として、本別町の魅力を肌で感じられることや、本別町に住む利点を直接説明することで、本別町に住みたいと思ってもらいやすいと考えたからである。

移住体験ツアーは、20～30代の子育て世代を対象とし、期間は1週間～1か月で考えた。内容は、本別町の特産品を使った食べ物づくり、本別の仕事・医療・子育てに関する説明、農業体験、本別公園のアスレチック体験などが上げられる。特に、実施したいと考えたのは、こども園留学である。

こども園留学とは、未就学児のいる家族が1～3週間程度、こどもをこども園に通わせながら本別町の自然などに触れてもらう「暮らし型保育サービス」である。こども園留学にした理由は、本別町の保育機関を実際に感じられることや、本別町のこども園の活用ができると考えたからである。

メリットとして、こども園に預けることができること、本別町の自然や雰囲気を感じることができることがある。一方で親のリモートワークが可能か、町が支出する経費が増える、こども園の先生の負担が増えることは課題であるとする。

この課題をどのように対処していくか検討した上で、この移住体験ツアーを実施したいと考えた。

6. 成果と課題

〔成果〕

本別町の人口減少について、根拠のある原因を見つけ、そこからたくさんの案を出し、現在、本別町が実施している移住体験と一緒に実施できるような内容を提案できた。

また、他の町では人口減少にどのような対策を実施しているのか知ることができた。

〔課題〕

計画性がなく、活動が止まってしまった。特に、長期休みをもっと活用できると良かった。

行き詰まり、どうしていいかわからなくなった期間が長かったため、コーチに意見をもらうなど多くの質問をして進めていく必要があった。

7. まとめ

選んだ課題が大きく、どこに焦点を当てていいのかがわからなかったため、最初から最後まで苦戦したが、少しでも話が進むように班員全員で多くの案を出していくことができた。

最終的には、議会で提案することができたため、やりきれてよかった。提案した内容を行うことになれば、今後、移住体験ツアー実施に向けてさらに内容を詰めていきたい。

最後に、今回の活動でサポートして下さった先生方やコーチの方、提案する機会を設けて頂いた議会の皆様、本当にありがとうございました。

参考文献

- (1) RESAS
- (2) 総務省統計局
- (3) 本別町 HP
- (4) 求人ボックス

移住体験プロジェクト

平尾瞭太 佐藤花実 八太柚帆 矢吹和心

概要

移住体験を通して、本別の魅力を感じてもらおうプロジェクト。

1. はじめに

本別町の人口減少が止まらないのは、仕事が少ないことが原因と考え、その解決策を考えた。

2. 課題について

本別町の仕事が少ない課題を解決するためにはどうすればよいのだろうか。

3. 現状分析について

日本と本別町人口の減少率を調べた結果、本別町は日本全体と比べても人口が減少していることが分かった。

次に、現在、本別町と人口が同じかつ年々人口が増加している東川町と本別町の求人の数を比べた結果、東川町の方が多いことが分かった。

日本

年次	人口	増減数	増減率
2020	126,146,000		
2021	125,502,000	-644,000	-0.51

本別町

年次	人口	増減数	増減率
2020	6,758		
2021	6,575	-183	-2.78

【グラフ1 日本と本別の人口の減少率】



【グラフ2 本別町と東川町の求人数】

4. 仮説について

本別町から他町に出勤してもらうことで、本別町の人口を減らさずに仕事の少ない課題を解決できるのではないかと考えた。

5. 解決策について

解決策として、本別町に住み通勤してもらうために移住体験ツアーの実施を考えた。

この移住体験ツアーを通して、本別町の魅力を肌で感じてもらい、本別に住む利点を説明することができると考えた。

6. 成果と課題

【成果】

- ・本別町議会で提案することができた。
- ・移住体験ツアーの内容を確定できた。

移住体験ツアーについて

- ・対象年齢 20～30代の子育て世代
- ・期間 1週間～1か月
- ・内容 本別の特産品を使った食べ物づくり
本別の仕事・医療・子育てに関する説明（実際に見てもらう）
農業体験
本別公園のアスレチック体験
こども園留学

【課題】

- ・町内の経済のしくみなどの知識が必要である。
- ・実施する際の移住体験ツアーの実施要項を作成する必要がある。

7. まとめ

活動全体を振り返り、町内の経済の状況など知識が希薄なのに対し、学ぶ姿勢が足りなかったことが反省点としてあげられる。

今後は知識を身に着け、新たな移住体験ツアーの内容をしっかりと詰めていきたい。

参考文献

- (1) 総務省統計局
- (2) 本別町HP
- (3) 求人ボックス

移住体験プロジェクト

八太柚帆 佐藤花実 平尾瞭汰 矢吹和心

概要

移住体験を通して、本別町の魅力を感じさせるプロジェクトを行ったので紹介する。

1. はじめに

高校のクラス数の減少や町に活気がない、若い人が少ないということから、人口減少が止まらないことをテーマにした。

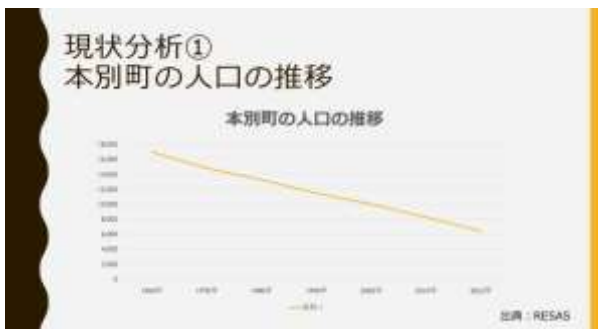
そこで、他の町や道外から本別町に移住してもらうことで、人口減少を食い止められると思い、移住体験プロジェクトを考えた。

2. 課題について

人口減少を食い止めるにはどうしたらよいだろうか。

3. 現状分析について

現状分析として、本別町の人口の推移を調べてみると、年々人口が減少していることがわかった。



【グラフ1：本別町の人口の経年推移】

また、本別町と日本の人口の減少率を比較してみると、日本全体では-0.51%、本別町では-2.78%となっていることがわかった。

そして、本別町の転出者が転入者の数をどの年代も上回っていることもわかった。



【グラフ2：本別町の人口の経年推移】

他に、本別町の求人数と人口が同程度の東川町の求人数とを比較してみると、258件の差で東川町の方が多いことが分かった。

4. 仮説について

私たちは、本別町から他の町に出勤することで、本別町の人口を減らさずに町内の仕事が少ない課題を解決できるのではないと考えた。

5. 解決策について

私たちが考えた解決策は、本別町に住み、他町への通勤が可能であること、住みやすい町であることを肌で感じてもらうために、移住体験ツアーを実施するという解決策を考えた。

また、本別町に住む利点について、私達自身で説明することもできると考えた。

6. 成果と課題

【成果】

実際に他の町の方を呼んで移住体験ツアーを行うことはできなかったが、本別町で実施している移住体験で使われている住宅を見学したり、話を聞くことで、ツアーの内容について、より深く考えることができた。

【課題】

実際に何かを私達で実践するような活動ができなかったこと。

7. まとめ

一年間通して活動して、自分たちで意見を出し合い課題に取り組むことはスムーズにはいかず難しかったが、今回、課題解決のために本別町が行っている取り組みなどを調べて、今まで知らなかったことを知ることができた。最後に今回活動に携わって頂いた、藤井さん、コーチの皆様、本当にありがとうございました。

参考文献

(1) 本別町 HP、(2) 求人ボックス、(3) 総務省統計局

移住体験プロジェクト

佐藤花実 八太柚帆 平尾瞭汰 矢吹和心

概要

移住体験プロジェクトを計画した。

1. はじめに

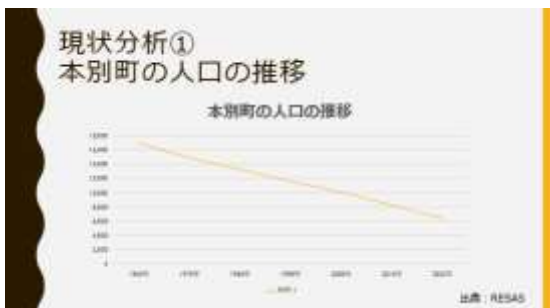
本別町は仕事の求人が少ない上、人口が減少している。それらを食い止めるために移住体験ツアーを実施し、厚沢部町で行われている『保育園留学』を取り入れることで解決できるのではないかと考えた。

2. 課題について

本別町の仕事が少なく転出者が多くなっている。これらにより人口が減り、町の活気や学校のクラスがなくなっている。

3. 現状分析について

本別町の人口推移を調べたところ図 1 のように、グラフの左側が 1960 年、右側が 2022 年であり年々減少していることが分かる。



【図 1：本別町の人口推移】

また、本別町の転入者と転出者の人数（図 2）を調べたところ、どの年代も転出者が上回っていることが分かった。



【図 2：本別町の転入者と転出者】

4. 仮説について

本別町に住み、本別町から他の町に出勤してもらうことで本別町の人口を減らさずに仕事の少ない課題を解決できるのではないかと考えた。

5. 解決策について

本別町に住み出勤してもらうために移住体験ツアーを実施する。理由は本別町の魅力を肌で感じることができ、本別町に住む利点を説明することができるからである。

移住体験ツアーの内容は厚沢部町で行われている『保育園留学』を取り入れ、子供がいても本別町の認定こども園に通わせることで子連れの家庭でもツアーに参加することができるのではないかと考えた。

6. 成果と課題

【成果】

『人口減少』という答えがない難しい問題を高校生の考えでどこまで解決策まで引き出すことができるのか知ることができた。

【課題】

知らないからこそ斬新なアイデアは出るが、知ってからできること、できないことをどのように解決していけばよいのか、新しく得た知識でどう対処できるのか対応できる力を身に付けたい。

7. まとめ

今後、議会提案した案が検討され、移住体験ツアーが行う形になれば役に立つために活動したいと思います。最後に、今回携わっていただいた藤井さん、コーチの方々、先生方に深く感謝申し上げます。

参考文献

トップページ - RESAS 地域経済分析システム